

光ファイバケーブルを曲げることなく識別可能、
安全に撤去作業が行えます。

【光ファイバ識別器 CFT-810】

- 誤抜去の防止に最適
- ファイバコードを軽く叩くだけで、インジケータが反応
- 付属のイヤホンにより、音での判別も可能
- ダイナミックレンジ9dB(約20kmまで測定が可能)
- 対応ファイバタイプはシングルモードファイバ(1310nm)
- 可視光源機能・パワーメータ付き
- バッテリー操作12時間(連続操作時)

※識別条件:①端末がコネクタ処理(UPCまたはSPC研磨)、又はファイバカッタで切断されていること
②活線ではないこと

Audio Fiber Tracer CFT-810 by FIBERPRO

波長	1310nm
出力値	-4dBm ~ -25dBm
ダイナミックレンジ	9dB(端末までのロス) (約20km)
電源	24V DC 2.5A
コネクタ	SC/APC
バッテリー	リチウムイオン電池 10.8V 4Ah (交換式リチャージャブル バッテリー)
バッテリー充電時間	3 時間
寸法(mm)/重量	200 x 150 x 90 /2.5kg
表示ディスプレイ	LCD
外部出力インタ フェース	32Ω イヤホン
操作環境	-10~ 50 °C
保管環境	-10~ 60 °C (長期保管時) -40~ 60 °C (輸送時)



Case 1: 局内光ケーブルの撤去作業

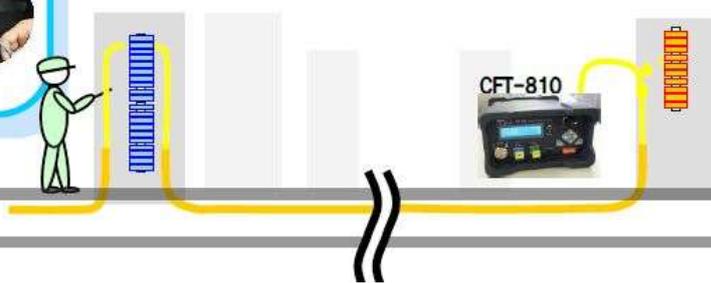
- 局内光ジャンパケーブルなどを **曲げることなく、軽くはじくだけ** で識別作業が行えます。
- ファイバを曲げる必要が無く、**光ファイバに掛かる負荷を最小限に抑える** ことができます。
- 局内ケーブルの種類/太さを問いません。
- **最大 20km の測定が可能**です。

撤去したい光ケーブル(回線)をペン等で軽く叩きます。振動が光の干渉現象を引き起こし、光ケーブルを伝わり、CFT-810本体まで伝送されます。



作業者の与えた振動は、光ケーブル内を伝わります。

感知した振動をインジケータと音で確認できます。輻射したケーブルでも、はじく部分から1m程度の長さを孤立させることで確認可能。



Case 2: 所外系ケーブルの識別作業

- 屋外ケーブルも **曲げることなく、ペン等で叩く** 事で識別作業が行えます。
- 光ケーブルの外径/心線数は関係なく、ほとんどのケーブルを識別可能です。
- 心線を曲げる必要が無く、**光ファイバに掛かる負荷を最小限に抑える** ことができます。
- 心線を曲げない為、**他の現用回線に影響を与えません**。
- ケーブル撤去作業等、今までの識別工法に付加する事で**ケーブルの誤切断防止**につながります。

CFT-810



200心や400心などの地下ケーブルから、単心ドロップなどの細径ケーブルまで、ケーブルの径/種類を問わず使用頂けます。

架空・ドロップケーブルもOK!



地下ケーブルもOK!

輸入元・取扱



原田産業株式会社 AIFチーム

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目2番1号 東京海上日動ビル新館

TEL 03-3213-8391 FAX 03-3213-8399

<https://infocom.haradacorp.co.jp/optical-fiber-tester/cft-810>